

紙器・印刷版

安定の打抜き精度PR

日本紙工機械グループ

リノベーション
オートン見学会

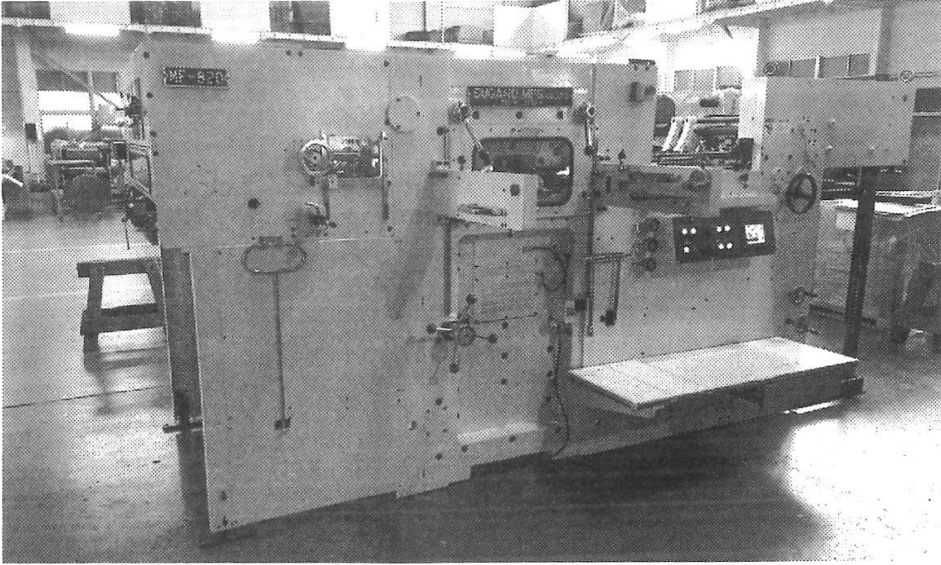
低価格と高機能両立

(株)日本紙工機械グループは6月10日から月末まで、本社工場(茨城県利根町)でリノベーションオートンを公開した。板紙用自動平盤打抜き機MF-820Rを展示、リノベーションの基本から解説し、低価格帯と最新機能を実演でアピールした。野線の精度や強さ、ムラトリ時間の少なさなどにも注目が集まった。

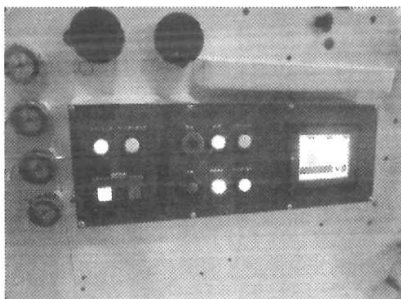
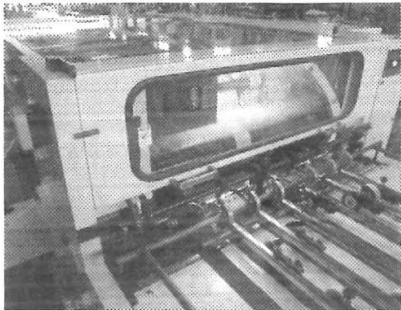
早部慎一郎副社長は「今回のオートンは820Rのミニサイズ。主に小規模な印刷紙器メーカーが対象となるが、開催日を限定してしまうと従業員が少ない会社ほど時間が取れず参加し辛いため、期間を長く設けることで気軽に見ていただき易くなった。このような半ばフリーな形式は、当社では初だったが、リノベーションの基本から理解して頂く良い機会だった。」

た」とした。会期後も、要望があれば随時受け付ける方針だ。

リノベーションは、老朽化したマシンのフレームなど堅牢なパーツを活かし、制御機能などの電気系統を最新システムに一新している。ハイスペックでありながら、新台のおよそ半額という価格帯も実現、両立できる。今回は製造から20年以上経ったオートンだが、今後さらに20年以上使用できるよりに生まれ変わった。



最新機能を搭載し生まれ変わったミニオートンを実演



①力強く精細な抜き②操作容易なタッチパネル